

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

1 開催概要

日 時 令和7年5月29日(木) 18:30~20:30

場 所 浜田市総合福祉センター 会議室

出席者 別紙名簿のとおり

2 議事次第

(1) 教育長挨拶

(2) 委員会の設置について

(3) 協議事項

① 会長・副会長の選任について

② 会議の公開について

(4) 報告事項

石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の検討事項について

(5) 意見交換「石見神楽の保存・伝承拠点に必要と考える機能や展示・活用方法等について」

(6) その他

3 議事録

(1) 教育長挨拶

岡田教育長より挨拶。内容は以下のとおり。

岡田教育長	委員の皆様には、この度石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の委員をお引き受けいただき、本当にありがとうございました。きっと皆様にとって石見神楽は本当に身近なところにあって、時には危機感も持ちながら、その保存伝承に思いを巡らせていただいているのではないかと思います。この石見神楽の保存伝承につきましては、昨年度の石見神楽伝承内容検討専門委員会で本当に丁寧な議論をしていただき、具体的な取組の方向性についてのご提言もいただきました。この提言書に基づいて、今年度石見神楽の保存伝承拠点のあり方や機能などの議論を重ねて、具体的な基本構想を策定するためにこの検討委員会を立ち上げさせていただきました。この検討会委員の中には、昨年度の専門委員会の委員の方も多くおられますので、これまでの経緯は十分ご存知のこととっておりますが、この拠点施設といいますのは、提言書に盛り込まれております重要な視点である、神楽団体をどう伝承しているのかということ、もう一つがこの神楽の関連用具を作っておられるものづくりの技術をいかに継承していくかということ、もう一つが石見神楽を創り出したまちとして誇りを持ってど
-------	---

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

	のように情報発信していくかということ、もう一つは行政の役割になりますが、これから石見神楽の歴史をしっかりと調べて調査研究して、保存すべきものを明らかにしていくこと、そのような拠点というのが求められているわけであります。折しも、6月には大阪関西万博での石見神楽上演がありますし、また、7月には子ども神楽公演も同じく予定をされております。より一層、石見神楽を世界に発信するという絶好のチャンスであると考えておりますが、一方で、ではその受け皿をどうするのか、石見神楽の里に目が向いた時に、このまちとしてその受け皿をどうするのか、拠点整備が本当に急がれるところであります。このチャンスを生かすためにも、拠点の施設にはどのような機能が必要になるのかということについて、この検討委員会でしっかり議論をしていただいて、構想をまとめていきたいと考えており、皆さん方の忌憚のない意見を頂戴したいと思います。これから少し長丁場になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。
--	--

※市長挨拶後、各委員及び教育委員会職員の自己紹介。

(2) 委員会の設置について

事務局より、資料1に基づき説明。

(3) 協議事項

① 会長・副会長の選任について

委員より、昨年度の石見神楽伝承内容検討専門委員会に引き続き、会長に島根県立大学の豊田知世氏、副会長に石見ケーブルビジョン(株)の福浜秀利氏の推薦があり、全会一致で承認された。

② 会議の公開について

浜田市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、録画配信を異議なく承認された。

(4) 報告事項

石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の検討事項について

事務局より資料2、3に基づき説明。

(5) 意見交換「石見神楽の保存・伝承拠点に必要と考える機能や展示・活用方法等について」

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

藤原委員	行政として調査研究に関わる、あるいは博物館として情報発信に関わっている立場から思うところを言わせていただきます。これまで浜田市内をはじめ、各地で資料調査を行っている、思いがけないところから非常に良いものが出てきます。浜田市の石見神楽の歴史を考える上で非常に重要と思われる資料と出会うことも少なくありません。これをそのまま放っておくと、資料が散逸してしまう恐れがあるため、行政として、市内の歴史的な資料を十分調査できる体制を整え、浜田に伝わる石見神楽がどういう歴史を辿ってきたのかということ調査し、それについて文化財行政的な適切な措置、散逸を防ぐ対策をとっていく必要があると思います。また、そうした資料、情報を行政だけで持っておくのではなく、それがいかに価値があるかということや、どのように神楽が今日に続いてきたのかということや、それを広く市民の方、あるいは浜田に訪れる観光客、神楽に関心のある方に対して発信をしていく必要があると思います。そうしたときに、有効な手だてとして、やはり資料の展示は欠かせないと思います。その意味でも資料を収集、調査し、展示できるような体制を整えていただけるとありがたいと思います。昨年度の提言書でも、「そこに行けば浜田の石見神楽が全てわかる拠点施設」というような表現をされていましたが、まさに私も同じ気持ちであります。また、仮に拠点を整備するのであれば、神楽のことだけが分かるということでは不十分だと思います。もちろん、神楽のことは十分発信しますが、その上で浜田の歴史文化が広く知れる、神楽に関心がない人でもそこを尋ねやすいとか、広く市民の方に開かれるような拠点であると良いと思います。そういう意味では以前から問題になっている郷土資料館と合わせるというのが良いのではないかと考えています。また、活用について、以前、郷土資料館の事業計画を見ましたが、今既に行っている取組を充実させる方向が良いと思います。仮に展示する場所ができたとして、施設としては何度でも訪れたいことが必要だと思いますので、常設展示以外にも企画展示、石見神楽に関してもそうですし、それ以外の浜田市で調査されていることが、広く発信できるような場であると良いと思います。それから、展示を見るだけでなく、より深く知りたいということになると、それに関わる講演会、講座のようなものがあると良いと思います。また、博物館に勤めていて思うことは、普及事業が非常に重要ということでもあります。資料館、博物館というと訪れるハードルが少し高いと思っています。そのハードルを下げるような、例えば体験ができるようなワークショップや体験型のプログラムを作って、折々市民の方に体験していただく。神楽であれば、面の絵付け体験とか、採物を作ってみるとか、そういったことを常時できるような場があれば良いのではないと思
------	--

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

仲野委員	ますし、仮にそういったものがきちんとプログラムにできれば、園児や児童が遠足などでそこを尋ね、展示の見学と合わせて、何か物を作って体験をすることができるというよりは、意味があるのかなと思います。私が勤めている古代出雲歴史博物館では、普及活動として年間折々でイベントや催しを開催しますが、年3回の春祭り・夏祭り・秋祭りにおいては、自前のワークショップを行ったり、近隣の博物館の出展があったり、体験活動を行ったり、最近では飲食の屋台にも出店をしていただいたりしています。また、博物館に広場がありますので、そういったところで遊具を設置したりして、1日中とまでは言えませんが、1日のひとときを気軽に訪れて、ゆっくりと楽しんで、そしてその中で、石見神楽についても見ていただけるような、そういった機会ができれば良いと思います。 一番重要なことは、この拠点施設は公共施設であるということです。公共施設は、時に経済的な考え方で議論される場合もあり、経済的な考え方も重要ですが、本来、公共施設やあるいは行政の役割は何なのかというところの議論をきちんとする必要があると思います。その上で、先ほどの藤原委員の意見にも関連しますが、行政の役割の1つは保存の部分です。昨年度の専門委員会でも、神楽面の型や面、衣裳などがネットオークションに出されているというお話があり、正直驚きました。実際、調べてみるとたくさん出ていました。そのように、資料が散逸する前にきちんと所在の確認調査をしたり、必要に応じて購入したりして、それを施設で保管するという、そういった機能や役割は必要だと思います。もう1つ重要なことは、そういった文化財は市民共有の財産ですので、それを市民といかに共有していくかということです。当然、子どもたちがそこに来て学習したりだとか、市民がそこに来て勉強したりすることも重要だと思います。そういった、市民とともに石見神楽の文化、文化財を共有していく取組が必要と思っています。また、石見神楽を通して、この地域社会を考えてみるという視点で、やはり地域の活性化を考えたときに、アイデンティティというのはすごく重要だと思います。地域に誇りを持つという、まさにふるさと教育ということだと思います。よく石見銀山のある大森町が、まちづくりで評価されているのは、やはり地域の人たちが石見銀山やその町の歴史、文化に誇りを持っているということが、まちづくりの大きな原動力になっていることだと思います。ですから、石見神楽を通してこの地域社会がいったいどうだったのかということを、市民一人ひとりが学習し、それが地域の誇りに繋がっていくということが、最終的にはまちづくりの大きな原動力になっていのではないかと思います。個別具体的な機能については、これから議論するのだと思いますが、最終的には先ほど言いま
------	---

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

小川委員	したように、地域の人たちが石見神楽に誇りを持って、それがまちづくり大きな推進力になっていくことを、この拠点施設に期待したいと思います。 浜田市が整理する石見神楽の拠点として、神楽のものづくりをはじめとし、浜田市で培われてきた様々な石見神楽文化を、市民をはじめ多くの人に学んでもらえ、後世に間違いなく継承する場であるということが個人的には第一義であると思います。要するに文化継承のための施設です。また、浜田市で培われてきた石見神楽の文化を集約して、浜田市の各地域の石見神楽の伝承を学べる、感じられる場でなければ意味がないと思います。また、舞、ものづくり、歴史などの石見神楽の文化について、分散して扱うような拠点の場ではあってはならないと考えています。あえて施設という言葉を使えば、拠点で大きな役割を持つのは、機能が精査され、余裕を持った収蔵施設が重要なものであると思います。これは、浜田市が石見神楽の様々な文化を創始した地域であること、また、今後の少子高齢化や人口減に対する様々な取組に保存が重要であるということです。今後、50年後100年後を考えたときに、果たしてこの浜田市が誇る50以上の石見神楽団体が全て残っているかと言われれば、おそらく残っていないです。そうなったときに、地域から寄贈を受けた神楽用具を、売るとか、ごみにしてしまうということでは、文化を継承したと言えませんが、石見神楽の地域として余りにも悲しいことであると思います。そういうものを、収蔵し、活用が終わったときにはまたその地域へ返してあげるといったようなこともできます。収蔵施設を整えるということは今までに委員の意見もありました。また、石見神楽に関する調査を行うに当たっても、収蔵施設がなければ、調べてどうするのかと感じます。石見神楽には、大変に収蔵すべきものがあり、これを収蔵するというのは、大きなスペースが必要で収蔵は非常に大事だと思います。また、収蔵と言っても倉庫ではなく、収蔵したものを公開したり、他にも色々な活用の仕方もあります。これまで述べましたように、浜田の石見神楽文化は多岐にわたり、石見神楽を創り出したまちとも言われることから、拠点の機能を考えれば、石見神楽の文化を曖昧にせず、明確に広報して伝承する場として、独立特化したものが望ましいと思います。石見神楽のプレーヤーとしては、先ほどの藤原委員の意見とは少し違うところがあります。今、取り沙汰されていますように、資料館の併設というようなことも合理的には良いかもしれませんが、私は、浜田城資料館の方が親和性はあると考えています。財政のことを考えれば大変とは思いますが、そういった活用、収蔵が重視されることになると思いますが、そういうことも考えていく必要があるのではないかと思います。また、石見神楽の拠点も、資料館に関しても、そこへまず市民の人
------	---

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

塚本委員	に来ていただいて、神楽で言えば多くの地域で営まれており、そこへ人を連れていくようなことも必要と思います。石見神楽に関する資料も同じく、地域には色々な資料が保存されていますので、その活用も考えていくべきだと思います。また、浜田における石見神楽は、文化継承される伝統芸能であるとともに、この地域の人を楽しませている、大切な集客・観光の資源ということも事実であります。集落などの楽しみであり、町内のイベントとして営まれてくることは当然であります。観光の催事では神楽が舞われます。大きな視野に立てば、浜田市、島根県、日本の民俗芸能として、県外、あるいは国外での公演をします。さらに言えば今や文化と観光をバランスよく担うことが石見神楽の文化と言っても過言ではないと思います。よく観光に傾倒するのはどうなのかと取り沙汰されていますが、私の持論としては、地域が寂しくなるということはそこに鎮座する神は悲しむと思っています。神楽が活用されて地域に賑わいもたらすことで、その地域に鎮座する神も喜ぶのではないかと、私は常々思っています。色々申しましたが、50年後、100年後をしっかりと見据えて、次世代に恥じることが無いような取組が行われるように議論し、拠点の場を整えていくということが非常に重要と思います。これから議論を重ねていきますが、そういうことを踏まえながら、私も意見を出していきたいと思っています。 一番気になるのは、神楽団体の存続についてです。先ほど、50年後、100年後というお話がありました。私は、波佐常磐倶楽部で神楽を継承していますが、そもそも波佐は地域に人が少なくなっており、10年後もあやしいと思っていますが、今が一番良い時期ということで頑張っています。どうにか自分たちの社中を存続させるため色々考えています。波佐地区に関係する人だけ受け入れるという先代の考えもありますが、色々なところから引っ張ってこないといけないというような話もしています。波佐常磐倶楽部は六調子でもあり、どちらかというと八調子の方が人気があるので、中々難しいところもあります。拠点を考えたときに、やはり作るのであれば、浜田のプライドかけたようなもの、石見神楽を創り出したまちと謳っていますので、神楽関係者だけでなく、興味がなかった人でも、行ってみたいというような、まず地元の人が足を運んでくれるようなところを目指すべきだと思います。賛否両論があるとは思いますが、観光ありきではなく、浜田のプライドをかけて作ると多分観光はついてくると思います。そうすると、舞う場所や展示する場所など色々なことが提案されてくると思いますが、波佐常磐倶楽部で言えば、そういった場で公演させてもらって、波佐常磐倶楽部も良い、自分も入りたいというような人が1人でも増えれば良いと思います。先日、県外の神楽団体から、衣裳を買ってほしいとい
------	--

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

藤本委員	う依頼がありました。その団体は昔から波佐常磐倶楽部と付き合いがあったため、声をかけてもらいましたが、古い衣裳も新しい衣裳も全部持って帰ってほしいという話でした。いらないものはお宅で処分してと言われても、氏子さんをはじめ地域の方が、御花を打ったり、寄附をしたりして作った思い出のあるものをいただいて処分はできないため、今回はお断りをしました。そういった神楽団体が今から出てくると思います。そういったものを保管するようなところを作るべきかと思います。例えば、神楽団体が無くなった地域で新しく立ち上げとなった場合、一から揃えるのではなく、収蔵施設に保存されたその土地の衣裳で復活するとかができればすごく良いと思います。暗い話ばかりでもいけませんので、とにかく市民の皆さんは、神楽が好きな人も多いと思います。中には、どこを見ても変わらないというような人もおられるし、色々な意見があると思いますが、1人でもこちらを向いて、足を運んでいただけるような、明るい施設にできたらと思います。また、展示物にしても、そういった預かっているものを、毎月入れ替えながらできればよいと思います。あと、波佐常磐倶楽部は六調子ですけども、六調子もアピールしていただくような施設にできたらと思います。 私は本郷神楽社中で神楽をしています。塚本委員と同じ状況です。自分に一番年が近い人でも10歳離れています。私は小学生から神楽をしており、中学生までは1歳年上の先輩や弟もしていましたが、段々少なくなってきて、同世代で続けたのは自分だけでした。一緒に舞う方は、お父さん世代で、定年を迎えた方がまだ舞っている状況が続いています。本郷神楽社中は六調子の中でも見た目の早い独特の舞で、なんとかこれを残したいと思っています。塚本委員が言われた、氏子、地元の人だけが入れるということも、旭町は特に根強い状況でしたが、実は社中の代表が変わり、私も副代表になり、少しずつ他所からの人も受け入れようという流れになっています。今までは、旭地域から浜田地域に出て神楽を舞うのは2団体でしたが、うちの社中も今年から観光協会にも登録し、浜田地域で公演して何千人に見てもらって、1人でも舞いたいと思ってくれる人を探そうと考えています。今までどうしても浜田市内で開催されている大きな共演大会などは、八調子の大会で、六調子の社中は頼み込んでやっと出してもらえるような、そんなレベルになっています。自分たちの子どもが、神楽をしていた時に何とか一生懸命頼み込んで子ども神楽の大会に出させてもらいました。そういった中で、拠点ができるのであれば、うちの社中は大元神楽の市山神友会とも交流がありますが、大元神楽があつて、そこから川伝いに山を越えて芸州に行って、海に降りてきて今の浜田の石見神楽になっ
------	--

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

梅津委員	たということが分かるような施設になると良いかなと思います。また、自分が子どもの頃に、週末、浜田の市街地に買い物に行くと、どこかしらから笛や太鼓が聞こえて、行ってみると、人が集まっていて、屋台が出ていて、どこかの社中が神楽を舞っていました。そういうことがとても好きでしたので、そういった施設ができると非常に嬉しいと思います。子どもたちにとっても、休みの日に出歩いたら、どこかしらで神楽をしていたら、「鬼が出た、キツネが出た」などと盛り上がるのではないかと思います。それが自分が昔、大好きだった浜田市であり、江津市であったと思います。また、最近見なくなった土曜日夜市でも、必ず神楽をしていたので、そういったことをするような施設ができると良いと思います。また、展示について、個人的には神楽の物語を神楽に沿ってわかりやすく説明してくれるような資料があると観る人はもっとのめり込むと思います。多分活字で読むのはなかなか大変かもしれませんが。正直、自分は浜田地域の八調子の神楽でも物語が分からない演目もあります。広島神楽は口上がすごくしっかりしていて、初めて見ても、口上を聞いたら分かりますが、こちらの神楽は物語が分からないという意見も結構あります。物語を覚えた人は、面白いと言ってくれる人もいますので、そういう人たちを大事にできるように、拠点施設には、この演目はこういった経緯があって、これを神楽にしたものだというようなストーリーが分かるような資料があると良いと思います。 私としては石見神楽を創り出したまちというのが少し腑に落ちないところがあります。私も詳しく調べたわけではなく、聞き伝えですが、昔の神職神楽が氏子に伝えられたことでどんどん変遷をしていったと認識していますが、証拠があるかという点、それを提示することはできません。変遷してきた、その流れっていうのを記録として残すということが、随分大事だと思います。先ほどもありましたように、八調子と六調子だけではないものもあると思います。そうすると、今までの時代の流れと絡めた石見神楽でないと、本当の意味で保存、伝承したということにならないと思います。最近、教育委員会から歴史的な石見神楽用具の調査依頼がきましたが、20年以上くらいのもものは全て古いものだと思います。そうすると、社中が保有している3分の2くらいは古いものだと思いますので、それを全部集めてどうできるという状況ではないと思います。社中の運営について言えば、古い衣裳を出して新しい衣裳を買うという方法も、ビジネスとしてはしょうがないと思います。存続する上では、いつも新しい衣裳を買うというのは、社中としては、経済的な理由でできない部分もあります。そうなったときに、引き取り手がないものについては拠点施設の展示や収蔵物として
------	--

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

丸山委員	扱うというのもありだと思います。なくしてしまわないのが一番と大事だと思います。そういう意味でも、やはり収蔵施設は必要だと思います。また、石見神楽についての興味をそそるような資料の調査は必要だと思います。若い人に興味を持ってもらうような、歴史や、浜田の50を超える社中それぞれの活動内容などを広報できるようなものでないと、拠点とは言えないと思います。拠点において舞を見てもらって、社中に入ってもらおうというプロセスは今のところでは現実的でないような気がします。そうすると、やはり資料として、各地域に舞を観に行くことを案内したり、それぞれの社中の特色や、舞の起源の紹介をしたりすれば興味を持ってもらえるのではないかと思います。石見神楽は、若くなければできないということでもありません。うちの社中でも一番年配の方は80代の方が舞われます。40代で入ってきても40年続けることが出来ます。また、今はうちの社中でも楽屋に着替えに帰ったら、誰もいなくて一人で着替えないといけない状況があります。石見神楽は、舞う人や楽人だけでなく裏方の人もいないといけません。上辺だけを見てもらうのではなくて、そういうことを知ってもらって興味を持ってもらうのが拠点として大事だと思います。裏方で衣裳の着付けをするのが好きな人もいるかもしれないし、例えば面がないときに化粧をすることがありますが、化粧をするのが好きな人もいます。先日、邑智郡の神楽団に来てもらいましたが、そこは化粧をする人が3人いました。そういう舞う人だけでなく、裏方の人もついて回れるような環境も必要だと思います。ですから、石見神楽の成り立ちと、こういうことをしているという部分を発信できるような拠点であれば良いと思います。また、ビジネスの拠点を作るわけではないので、ビジネスの拠点は観光協会と提携してもいいと思いますが、石見神楽についての調整ができるような、機関、指導員、そういう人がいないと拠点とは言えないと思います。場を提供するのは誰でもできますが、調整するのは大変なことだと思います。イベントに出演した際に、同じ日に他所でも同じような企画でイベントをしていたりすると、出演した側としてはそれはないでしょうという話になります。どちらへ行くかというのは、それはお客さんの自由ですけれども、機会を奪うことになっている気がしているため、そういった調整もできれば良いと思います。 収蔵の話がありましたが、先日、片付けをしていたら、昭和初期か大正時代くらいのかかなり古い衣裳が出てきました。やはりこういった衣裳は、箱の中に眠らせるのではなく、収蔵施設のようなところに展示をして皆さんに見ていただくことにより、また蘇るのではないかと思います。ですので、そういうようなものが必要なのかなと思っております。また、塚本委員、
------	--

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

大下委員	藤本委員も言われておりましたけども、うちの井野神楽は昔から閉鎖的な社中でありまして、地元の人でないと入れないという習わしがありました。それが、それも自分たちの代で少しずつ変えていかないといけないということで、大分間口は広げてはきましたが、いかんせん入る人が少ないです。それは今皆さんが言われたような情報発信がうまくできていないというような気がしています。SNSを使って発信はしていますが、そういうところは、行政の力を借りながら、拠点において社中やストーリーなどを紹介していただいて、それを見て興味を持ってもらい、入る人がいれば良いと思います。今、うちの社中が9人しかいませんので、4人舞いを行ったら、次は休憩をもらわないといけないというような状況でやっておりますので、どこの社中も一緒と思いますが、非常に存続するのが難しいです。ですので、人を呼んでもらうような拠点があれば良いと思います。 収蔵については本当に大切な問題だと思っています。各神楽団体の衣裳を入れる箱などを考えると、結構な面積を使用します。昔から受け継がれても使わないものとかもあると思うので、そういうことを行政に甘えても良いなら、拠点で管理、常に風をとおしなどしてもらって、現状維持できるように状況にしてもらい、それについては展示しても良いという関係ができれば、理想的かなと思いました。また、同年代の神楽をしている人ともしていない人とも石見神楽について話すと、観る人が少なくなっているのは事実です。そういうところに危機感を持って、見ていただけるような取組というのは各神楽団体でしていると思いますが、神楽の存在は知っているが、仕切りが高いとか、詳しくないので見ても分からないとか、今更聞けないとか、そういう神楽の門をくぐれない人が多くいると思います。そういう人が、この施設ができることによって入りやすくなればよいと思いました。福浜副会長が言われたようにワクワクするものは絶対必要だと思います。ですので、自分たちが子どもの頃のお祭りのイメージで、ワクワクしながら神楽も見たいけど縁日も気になるという、子どもにとってはパラダイスな状況で自分たちは育ってきました。そういうところを今の子どもたちにも見せたいです。こういう施設ができるのであれば、その中で神楽を見たときに格好良いと感じてもらえる状況があれば良いと思います。また、子どもを連れてくる保護者やおじいちゃんおばあちゃんが、神楽って面白いなっていうところに気づいてもらい、市民が求める、市民が再認識していく、市民が余計好きになっていくというようなもののスタートとしての仕掛けみたいなものがあれば良いかなと思います。神楽を舞う側もそうですが、観る方も雰囲気がないと面白くないので、お父さんはビールを一杯飲みながら神楽を見たりとか、そういう雰囲気も必要だと思います。
-------------	--

第 1 回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

柿田委員	そこを見て次世代の子どもが育って、何か楽しそうなものができたら、神楽を知らない人も多分来ると思いますし、そういうところでどんどん、上からでなくお客さんを横に広げていって、市民がひとつになれば、神楽を舞っている人よりも、市民が胸を張って石見神楽のまちと言えると思います。そういうところを目指したいと思います。設備とか公演場所とうことは、多分、収容人数などによって全然違ってくるとは思いますけど、神楽を舞う側とすれば、可能であれば、荷物が入れやすく、雨にあたらず、シャワールームがついていたら良いと思います。そういうものが実現したら、多分神楽を舞う側もうきうきすると思いますし、そういうところで舞うことができれば、ボルテージも上がるのではないかと思います。 私の考えでは、石見神楽にとって浜田は特別だと思っています。舞のルーツは定かではありませんが、面、蛇胴、衣裳、笛、花火など、それを生み出したのは浜田です。そういうことから、他所の地域は少し違います。また、普通の建物でなく、神楽にとことん特化した施設が必要です。また、50以上の団体がありますので、先ほど小川委員、塚本委員が言われましたが、人がいなくなって、やめてしまったときに、地域が支えてくれて買った衣裳などを売って地域に返還するということがあります。他所の地域はそれで良いかもしれませんが、浜田はそれがあってはいけないと思います。それは、石見神楽を創り出したまちというのがあるので、ほとんどが絶えてしまっても、それを浜田市が全て預かって、また何年後かに出してあげることができるような、大きな収蔵庫は絶対必要だと思います。実際、神楽の用具に関しては、広島でも浜田で作ったものを使っています。広島で面を作っている人も以前は市木面もありましたが、今は浜田の長浜面技法を使って作っています。江津や大田でも、浜田の長浜面技法で作っています。そういうものを生み出した場所ですので、全てを取っておける場所は必ず必要です。また、小川委員が言われたように、例えば東京公演をホールで行って、それを観たお客さんが浜田に石見神楽を観に来たときには、やはり舞殿で観てもらいたいと思います。ただ、舞殿といっても、今街中で夜明け舞がなくなったのは騒音の問題です。誰か1人でもうるさいと言えなくなります。そういった中で、夜通し舞う神楽は絶対に絶やしてはいけません。そこでしか舞わない演目もあります。舞殿は完全に防音の建物でその中で舞を見せる。また、浜田は大蛇8頭を生み出したまちでもありますので、その舞殿が少し変換したら、大蛇8頭が出ることができるステージに変わるとか、こういった、神楽に特化した建物を作りたいと思います。また、今、蛇胴が市の文化財になっていますけど、蛇胴の上には必ず蛇頭がつきますが、蛇頭は長浜面です。出雲でもそれを使って
------	--

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

堀尾委員	いる団体がいますが、その団体は出雲市の文化財指定を受けています。これはおかしいです。ただ、こういうおかしいことが起こるぐらい、浜田の神楽用具というのは魅力があります。それだけ魅力があるものをどう伝えていくのか、どうやって見せるのか。江津の桜江町の大元神楽伝承館で、あっちの方では、市木面を主流に使っていましたが、そこに展示されているお面は実はうちで全部レプリカを作った長浜面が展示されています。皆さん分からないと思いますが、実は長浜面技法というのは、そのくらい色々なところで使われています。そういうことも分かる施設を作ってほしいです。また、ものづくりの立場からすると、辞めていく団体のものを絶対残しておかなければならないと思います。浜田にいる団体が全部なくなったとしても、その用具を全部受け入れられる収蔵庫をつくってほしいと思います。藤原委員が言われたように、そこから少しずつものを出して企画展をしたり、バックヤードの見学をしたりしたら、それこそ学校の授業になります。そういう授業で来ることができるような場所も必要と思います。 私は愛媛県出身で、大学に入って、石見神楽だけでなく神楽自体を初めて知りました。その時に、実際の舞を見て、すごいと感じましたが、ただ観るだけでは、すごいとか、格好良い止まりで終わってしまいます。藤本委員が言われたように内容とか、ストーリーが分からないと面白くないと思います。口上も、初めて聞くと全然聞き取れないものが多く、現代語訳を聞いて初めて意味が分かります。公演を見に行ったときに、初めに物語の説明はありますが、始まってしまったら、どういう展開なのか、どういう状況なのか全く分からなく、少し面白くないなと思ってしまう時があります。口上の現代語訳であったり、活字であれば見にくいかもしれませんが、4コマ漫画であったり色々な工夫ができると思います。自分が1年生のときに、先輩に「塵輪の演目に出てくる赤鬼と白鬼は夫婦なんだよ」という豆知識を伝えられ、それを聞いて見方が変わりました。こういった、ちょっとした豆知識などを知れる場であると、興味がわくと思います。今までの委員の意見を聞いて、衣裳などを収蔵する場が必要という意見が多くあり、これは必要と思いますが、そのままどんどん収蔵するものが増えていくだけだと、少し悲しいと思います。バックヤード見学や体験型という形で衣裳を着ることができるような施設であれば面白いかなと思います。自分の所属している舞濱社中は設立して十数年ぐらいですが、いまだに衣裳がそろっていません。社中によっては、人が少なくなり衣裳が余っているような状態になっているところもあると思います。一方で衣裳が足りないために、存続が危ぶまれているところもあると思いますので、難しいかもしれませんが、収蔵した衣裳や他の用具について、このように必
------	---

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

川本委員	要としている団体に貸し出ができるのであれば、双方に利益があるのではないかと思います。 最初に事務局の方からお話がありましたように、保存、伝承の必要な機能だとか、展示活用というのは、まずポイントとして、提言書に非常に端的にまとめられており、それを基本に考えていくということが必要だと思います。私は博物館関係の仕事をしており、そういう中で最初に思うのは、理屈上の話ですが、拠点についていわゆる地域に根差した博物館機能を考えいくのか、それとも、博物館機能の中でも、観光的なところに比重を置いていくのか、あるいはどのぐらい置くのか。この部分の視点によって、これからの議論は、捉え方が変わってくるのではないかと思います。このあたりを最初にきちんと認識しておいて、行ったり来たりしながら、議論していくことが、ハード的な面では必要だと思います。また、石見神楽の見方、活用の仕方というところで博物館的な視点に立つと、まず石見神楽というのは神と人との関わりだということは押さえておかないといけません。それから先ほども、格好良さという言葉がありましたが、私も自分の子どもを見て思ったのは、最初に子どもたちが引き込まれるのは、やはり格好の良さと気品の高さだと思います。そういったところを展示であったり、活用であったりで上手く見せていくということも最初の入口として必要だと思います。また、ハード面において、収蔵庫なども非常に大切なことだと思いますが、何よりも大切なのは、やっぱり人だと思っていて、いわゆる、コーディネーターといいますか、博物館的に言いますと学芸員です。これがあってこそ、全てが生きてきます。または、ハブ機能的に社中から市民、専門家から社中、こういったところのハブ機能を持たせるといのは学芸員の大きな仕事だと思います。このあたりは、ソフト面のところでこれから議論をしていく必要があると思っています。
福浜副会長	川本委員の意見であった、大事なところは人というところですが、今回、伝承拠点の基本構想というのが少し引っかかっていまして、拠点については公共施設ということで、そのあとの実施設計は行政で行うということであれば、本当にこの検討委員会の思うものができないのではないかと思います。幾ら公共施設と言っても、多額の予算があるわけではないですし、今回、ハコモノを作った後の方がお金がすごくかかると思います。そうすると、今回は神楽団体であったり、神楽産業だったりの未来を守っていくのが大きなミッションです。当然、そこだけに予算が使えないという部分はあると思いますが、この町を輝かせていくために、この拠点が持つ効果を数値としてあらわすためには、公共事業で行うと難しくて、そこを担う組織をきちんと検討しないといけないと思います。基本構想だけで終わっ

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

	てしまうと、また議会で揉めるのではないかと思います。通常は、指定管理等になり、民間が運営することになると思いますが。通常の博物館とか美術館とは違い、資金があれば誰でもできる内容ではないと思います。小川委員など専門的に担っている方々が入らないと運営ができないと思いますので、本当にそれを担う組織をしっかりと考えていかないといけないと思います。また、まずはどのようなものが必要かというところで場所を決めるということですが、今は3つの候補地があるのではないかと思いますけども、先ほどの効果というのを考えると、場所をある程度決めて議論しないと、皆さんの頭の中でイメージが掴めないと思います。その組織もまさに人というところで、これからつなげていくために若い人たちにもぜひ入もらい、その辺も議論したいと思います。
豊田会長	私も県外から来て、石見神楽を観てすごく魅力的な文化だと思っていました。それを知る機会というのがこれまでなかったので、その勉強ができる機会を通してより魅力的なものにできたらと思っています。また、神楽に集中するべきか、そのほかのものも入れるべきかというところですが、神楽の面なり衣裳、和紙といったものがあって、石見神楽ができております。ですので、なぜそういうものができたのかということも含めて考えると、浜田で和紙を作っていたからこういう用具ができたというような歴史、また、神楽を含めた暮らしとか文化というものもこのうちにはあったかと思っていますので、そういうものも含めて浜田のことも知りたいとは思っております。神楽を通じて、神楽が生まれた町のこともより知れるような施設が良いのかなというふうに、思っております。また学芸員の人も非常に重要で、私も石見銀山に行った時に、銀山を見るだけでは、そこまで魅力というのは分からなかったですが、その町のボランティアの人に案内をしていただいて、銀山についての説明をされたときに、その魅力に気づきましたし、その説明されている方が非常に生き生きとされていて、自分たちの町に誇りを持って説明されていると感じましたので、そういう人たちをつくっていくといえますか、石見神楽に直接関わってはいない住民を巻き込んだ人づくりというところも、行うことのできるような施設ができればいいなと思っております。
邊神楽文化伝承管理監	本日ご欠席の、浅沼委員からご意見をお預かりしておりますので読み上げさせていただきます。 拠点の機能の一つとして大事なことは、神楽に関する資料が確実に健全な状態で、将来にわたり保存できるということだと思います。健全な状態であるからこそ活用できるということを第一にしていきたいと思います。また、展示につきましては、全国から見た石見神楽の位置づけが分か

第1回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会議事録

豊田会長	るような展示にさせていただきたいと思います。石見神楽は一地方のローカルな芸能ですが、明治以降はローカルな芸能でありながら広く影響を持つグローバルな存在になっていると思っています。そのようなことを含めて、おらが町の神楽的な展示ではなく、幅広い視点での展示をお願いしたいところです。 本日いただいた意見を事務局の方で整理をして、今後の検討委員会で検討したいと思います。
------	--

(6) その他

①次回日程について

事務局	・次回検討委員会の案内 日時：7月11日（金） 18時30分～ 場所：浜田市立中央図書館
-----	---

②その他の意見について

福浜副会長	先日、長澤社中が伝承プロジェクト100ということで保存伝承のための素晴らしい資料ができています。あれだけの作業を一つの団体でされたというのは非常に参考になることと思います。そういったことをされた経緯や目的をご披露いただきたいと思います。
豊田会長	委員会では関係者などを随時呼びしてお話を聞くということも考えておりますので、そういったご提案等もしていただきたいと思います。